



マテリアリティ特定プロセス

マテリアリティ特定プロセス

1. 見直した背景

サステナビリティ経営のさらなる推進のため、「価値創造ストーリーの構築」「マテリアリティの再定義」「ターゲットとすべきSDGsの明確化」について、2019年6月から検討作業を開始。「マテリアリティの再定義」は2020年10月のサステナビリティ推進委員会で行い、マテリアリティの見直しを審議しました。

2. 経営層による審議・承認

社外有識者による役員および事業責任者への個別ヒアリングを実施後、社外有識者からの提案を参考に事務局でまとめた素案は、サステナビリティ推進委員会において複数回の審議を行い、2020年1月に取締役会で審議、承認しました。2021年度から新マテリアリティとして開示しています。

ミズノのマテリアリティと関連する主なSDGs

マテリアリティ	重要課題	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
Beyond ビジネスを通じた社会的価値の提供	スポーツの持つ多面的な価値への貢献 詳細へ	スポーツを通じた心身の健康			●	●	●												●	
		スポーツを核とした地域コミュニティの発展			●	●	●													●
		スポーツを軸とした多様性の推進			●	●	●					●								●
	社会課題解決への貢献 詳細へ	運動機能の維持による健康寿命の延伸			●	●	●													●
		子どもの体力・運動能力の向上			●	●	●					●								●
		ミズノの技術を応用したSDGs貢献			●	●	●				●			●	●					●
Responsibility ビジネスに伴う責任ある企業行動	人権を尊重した責任ある調達 詳細へ	サプライチェーンマネジメント	●		●	●	●	●		●		●							●	
	ライフサイクルを通じた地球環境への責任 詳細へ	気候変動			●				●	●				●	●	●	●			
		有害化学物質の削減			●				●	●				●	●	●	●			
		廃棄物の削減			●				●	●				●	●	●	●			
	責任ある事業慣行 詳細へ	コンプライアンス/腐敗防止										●								●
		知的財産の保護																		●
		個人情報の保護										●								●
	安全で高品質な製品への責任 詳細へ	製品の安全と品質の確保												●						
		製品に関するコミュニケーション												●						
		お客様との関わり												●						

ミズノでは、マテリアリティについて一部見直しを行いました。「スポーツの持つ多面的な価値への貢献」および「社会課題解決への貢献」の2項目に関して、紐づく内容を再検討し、更新しました。全体的なマテリアリティの見直しは、2023年度以降に実施する予定です。



特定したマテリアリティ

主要取り組みKPI

マテリアリティの取り組みについて、進捗状況を適切に管理し、年次報告書での情報開示を推進するため、主要取り組み指標（KPI）を策定しています。

「特定したマテリアリティ」に記載する一覧表

マテリアリティ	重要課題	リスク	機会	主要取り組み指標 (KPI) と目標・実績
スポーツの持つ多面的な価値への貢献	<ul style="list-style-type: none"> スポーツを通じた心身の健康 スポーツを核とした地域コミュニティの発展 スポーツを軸とした多様性の推進 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ競技者人口の減少 国内スポーツ市場の鈍化 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツに関する理解やノウハウ、技術、ネットワークを生かしたスポーツの力の価値提供 	<ul style="list-style-type: none"> 健康維持・増進につながる製品・サービスの利用者総数(延べ人数) 2022年度実績：3120万人（目標設定なし） 2023年度目標：3380万人超（コロナ前の利用者数を超える） スポーツ施設におけるロングパイル人工芝販売面積 2022年度実績：17万㎡（目標設定なし） 2023年度目標：20万㎡（対2022年118%）

マテリアリティ	重要課題	リスク	機会	主要取り組み指標 (KPI) と目標・実績
社会課題解決への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 運動機能の維持による健康寿命の延伸 子どもの体力・運動能力の向上 ミズノの技術を応用したSDGs貢献 	<ul style="list-style-type: none"> 情報化社会の進展などによる、趣味嗜好の多角化 手軽かつ安全に遊べる外遊びの場の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 独自の運動プログラムの開発・展開・推進 スポーツ施設利用による地域の多様なコミュニケーション促進 労働形態の変化による日常生活における身体活動の機会拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ワーク事業の売上高 2022年度実績： 97億円 2025年度目標： 170億円 歩行能力・歩行タイプ分析システム 「Motion DNA（モーション ディーエヌエー）」を通じた社会の健康増進サポート、測定会実施回数 2022年度実績： 30回 2023年度目標： 50回
人権を尊重した責任ある調達	<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーンマネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> 海外の新規サプライヤーからの調達による人権・労働安全リスク 	<ul style="list-style-type: none"> 新規サプライヤーに対する事前評価の実施による高品質かつ安定的な調達の実現と競争力の拡大 エシカル消費に対応した製品・サービスの販売機会の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度に実施した致命的・重大不適合項目の是正率 2022年度目標／実績：65%/31% 2023年度に実施する致命的・重大不適合項目の是正率 2023年度目標：65%
ライフサイクルを通じた地球環境への責任	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動 有害化学物質の削減 廃棄物の削減 	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動に伴う事業所、店舗、管理施設などへの物理的損害 気候変動によるサプライヤーの操業停止や原材料調達の遅れ 環境規制の強化と対応コストの増加 再生可能エネルギーの導入によるコストの増加 気温の上昇や熱中症のリスク拡大による屋外スポーツの減少 廃棄物の排出増による処理コストの増加 有害化学物質の流出リスク 	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの導入、廃棄物の削減、リサイクルの推進などによるコスト削減 環境配慮型商品、気候変動対応商品の開発・販売による売上の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> アパレル：環境配慮型商品 2028年目標：100%（新製品全カテゴリ） フットウエア：環境配慮型商品 2027年目標：100%（新製品全カテゴリ） 用具：製造工程における材料ロス削減、製造時に使用するエネルギー量削減、副資材削減・簡素化 2030年目標：30%削減（対2018年比）

マテリアリティ	重要課題	リスク	機会	主要取り組み指標 (KPI) と目標・実績
責任ある事業慣行	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス/腐敗防止 知的財産の保護 個人情報の保護 	<ul style="list-style-type: none"> 汚職、贈収賄等のコンプライアンス違反 第三者の知的財産権の侵害 サイバー犯罪の拡大とサイバーセキュリティ事故 	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーからの信頼構築による持続的な企業価値創造 	<ul style="list-style-type: none"> 内部通報窓口の従業員認知度の向上 (*d) <p>2022年度目標/実績:</p> <p>①ミズノ従業員によるミズノフェアプレーホットライン 100%/未調査※</p> <p>②ハラスメント窓口認知度 100%/90% (アンケート回答者 915名)</p> <p>2023年度目標:</p> <p>①100%、②100%</p> <p>※ミズノフェアプレーホットライン窓口認知度については2022年度未調査</p>
安全で高品質な製品への責任	<ul style="list-style-type: none"> 製品の安全と品質の確保 製品に関するコミュニケーション お客様との関わり 	<ul style="list-style-type: none"> 新規市場への参入などによる取り扱い製品の多様化やサプライチェーンの複雑化 世界的な化学物質規制強化への対応 	<ul style="list-style-type: none"> より柔軟な品質保証体制の構築による迅速な製品投入と販売機会の拡大 各国の法令に基づく安全な製品の生産と販売 多様な勤務体系に応じた品質知識習得の機会創出による人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 品質目標 (クレーム返品に関する不良率 ※) <p>22022年度実績: 目標達成率</p> <p>①グローバルフットウェアプロダクト本部 140%</p> <p>②グローバルアパレルプロダクト本部 153%</p> <p>③グローバルイクイップメントプロダクト部 106%</p> <p>2023年度目標: 目標達成率100%</p> <p>※製造責任の不良返品数を送品数で割って算出し、各部門で定めている目標値と比較したもの。</p>

ミズノに関連する46課題

2015年に重要課題（マテリアリティ）を特定した際に、下記の46課題を抽出しました。これらは当時、ISO26000、SDGs、GRI G4ガイドラインなどの国際的に重要とみなされている基準、また、NGOや調査機関の各種報告書などを参考とし、6つのピラー（柱）の下に自社に関連する課題として整理したものです。

2018年度にマテリアリティを見直した際は、これらの46課題を参考に実施していました。見直しの際は、当社に深く関わる社会課題を整理するとともに、これまでの実績を整理し、社外有識者の提案に従い、当社の強みや、ビジネス領域、提供する社会価値について、経営陣や関連部門の社員と議論を重ね、46課題の中から新マテリアリティを選定しました。2021年度に開示したマテリアリティへの更新のプロセスは、[こちら](#)を参照ください。

スポーツの振興	CSR調達	環境
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの体力と運動能力の向上 2. スポーツを通じた高齢者の健康増進 3. 学校や地域との協力を通じた地域スポーツの振興 4. 障がい者スポーツの振興支援 5. アマチュアスポーツの振興支援 6. スポーツ指導者の育成 7. 途上国におけるスポーツ振興支援 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一次サプライヤーにおける環境影響 2. 一次サプライヤーにおける労働者の処遇 3. 一次サプライヤーにおけるその他のリスク 4. 児童労働の禁止・廃絶 5. 二次/三次サプライヤーにおける環境影響 6. 二次/三次サプライヤーにおける労働者の処遇 7. 二次/三次サプライヤーにおけるその他リスクの把握 8. サプライヤーのキャパシティ・ビルディング 9. サプライチェーンにおけるCSRの取り組みに関する情報開示および透明性の確保 10. サプライチェーンにおける結社の自由と団体交渉権 11. サプライチェーンにおける苦情処理メカニズムの構築 12. 製品に関するサプライヤー情報の開示 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 温室効果ガス排出量の削減 2. 廃棄物の削減と正しい管理・処理 3. 人体や環境に有害な化学物質の削減と使用に関する管理 4. エネルギー使用量の削減 5. 水使用の効率化および使用に関する管理 6. 製品の環境負荷低減に向けた研究開発 7. 製品の環境負荷に関する情報の開示 8. スポーツイベント開催時の環境への配慮 9. 使用済み自社製品の回収とリサイクル
公正な事業慣行	製品責任	雇用・人材活用
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガバナンスの強化 2. コンプライアンスの実践 3. 内部統制の強化 4. 腐敗防止 5. 反競争的行為の防止 6. 知的財産権の保護 7. 個人情報保護 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 製品の品質管理 2. 製品の安全な利用に関する消費者への情報提供 3. 宣伝・広告物の適正化 4. 製品に関する表示物の適正化 5. 消費者からの問い合わせ対応 6. 不良品に関する誠意ある対応 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公正な評価制度 2. 職場の安全衛生 3. 多様な働き方の実現 4. ダイバーシティ 5. 従業員の賃金と福利厚生



スポーツの持つ多面的な価値への貢献

なぜ重要か（重要性の理由）

スポーツが提供できる価値は多種多様であり、人々がより豊かに、健康かつ快適な生活を送るために重要な役割を担っています。ミズノは、一人でも多くの人々にスポーツの楽しさを届け、「フェアプレー」「フレンドシップ」「ファイティング・スピリット」というスポーツの宿す精神を体験してもらうこと、また、社会が直面する課題に対し、スポーツの持つ可能性を最大限に生かしたソリューションを関係機関と協力して提供することが重要と考えています。

関連するSDGs



ミズノのリスクと機会

国内の人口減少に伴うスポーツ競技者人口の減少や国内スポーツ市場の鈍化はリスクと認識しています。

ミズノは、当社グループが持つスポーツに関する理解やノウハウ、技術、ネットワークなどを生かすことでスポーツの力を最大限に引き出し、その価値を世界中のより多くの人々に提供できるように今後もグローバルでの事業拡大を目指していきます。

■リスク

- スポーツ競技者人口の減少
- 国内スポーツ市場の鈍化

■機会

- スポーツに関する理解やノウハウ、技術、ネットワークを生かしたスポーツの力の価値提供

主要取り組み指標（KPI）と目標・実績

- 健康維持・増進につながる製品・サービスの利用者総数(延べ人数)
2022年度実績：3120万人（目標設定なし）
2023年度目標：3380万人超（コロナ前の利用者数を超える）
- スポーツ施設におけるロングパイル人工芝販売面積
2022年度実績：17万㎡（目標設定なし）
2023年度目標：20万㎡（対2022年118%）

重要課題へのアプローチ

スポーツの振興およびスポーツに関わる人の増大を目的に、「するスポーツ」とともに「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」にも応えるための「機会」・「場」・「サービス」を提供し、地域の活性化につながる「歓び、感動、夢」を創出していきます。

主要な取り組み

「スポーツの持つ多面的な価値への貢献」に関連する取り組みは下記をご参照ください。

[スポーツを通じた心身の発展](#)

[スポーツを核とした地域コミュニティの発展](#)

[スポーツを軸とした多様性の推進](#)

今後に向けて

多様な人たちが世代・性別・障がいの有無などの違いを超えて、運動やスポーツを一緒に楽しめる製品・サービスの研究・開発を進めていきます。



社会課題解決への貢献

なぜ重要か（重要性の理由）

ミズノは、競技スポーツ品だけではなく、生活用品やワークビジネスなど多様なシーンに目を向けて事業を展開しています。スポーツ分野で培った強みを生かし、心身の健康増進や、地域の多様なコミュニケーション促進を含めて、社会課題の解決や地域社会の健全な発展に貢献していきます。

関連するSDGs



ミズノのリスクと機会

情報化社会の進展やさまざまな作業の自動化により利便性が向上し、労働形態の変化なども加わり便利で快適な生活が実現しました。ミズノは、スポーツの定義を競技シーンだけでなく、日常生活シーンにおける身体活動にも拡大し、スポーツの力で社会課題を解決する新たなビジネスの創出の機会と捉え取り組んでいきます。

■リスク

- 情報化社会の進展などによる、趣味嗜好の多角化
- 手軽かつ安全に遊べる外遊びの場の減少

■機会

- 独自の運動プログラムの開発・展開・推進
- スポーツ施設利用による地域の多様なコミュニケーション促進
- 労働形態の変化による日常生活における身体活動の機会拡大

主要取り組み指標（KPI）と目標・実績

- ワーク事業の売上高
2022年度実績： 97億円
2025年度目標： 170億円
- 歩行能力・歩行タイプ分析システム 「Motion DNA（モーション ディーエヌエー）」を通じた社会の健康増進サポート、測定会実施回数
2022年度実績： 30回
2023年度目標： 50回

重要課題へのアプローチ

当社グループは、子どもの体力・運動能力向上、シニアの健康寿命延伸に注力しています。子どもの体力・運動能力の向上のためには、幼少期から身体を動かすことに慣れ親しむことが重要です。また、高齢化が進む現代では、スポーツを通じた健康寿命の延伸が期待されています。当社グループが開発したオリジナルプログラムを運動好きな子ども、元気な高齢者を増やす地域活性化プログラムとして展開していきます。

主要な取り組み

「社会課題解決への貢献」に関連する取り組みは下記をご参照ください。

[運動機能の維持による健康寿命の延伸](#)

[子どもの体力・運動能力の向上](#)

[ミズノの技術を応用したSDGs貢献](#)

今後に向けて

当社グループは競技スポーツ分野で培った技術や素材も応用し、みんなが楽しく体を動かす社会、スポーツの力で社会課題を解決する世界の実現を目指していきます。



人権を尊重した責任ある調達

なぜ重要か（重要性の理由）

ミズノの委託先工場の多くが所在するアジア太平洋地域は、一般的に人権、労働、環境面での懸念が大きい地域といわれています。当社グループは、「良いモノづくり」とは、製品が安全・安心、かつ高品質であることはもちろん、その生産工程において人権、労働、環境面などが国際的な基準からみて適切であることが重要であるとの考えのもと、CSR調達を推進しています。なかでも、人権の尊重は、今後さらにグローバルにビジネスを拡大する上でより重要であると認識しており、「人権を尊重した責任ある調達」をマテリアリティとして掲げ取り組んでいきます。

関連するSDGs



ミズノのリスクと機会

サプライチェーンのさらなるグローバル化により、海外の新規サプライヤーからの調達が増えることは、人権や労働安全のリスクにもつながります。ミズノでは、継続して新規サプライヤーに対する事前評価を確実に実施することで、高品質かつ安定的な調達を実現し、競争力の拡大とエシカル消費に対応した製品・サービスの販売機会を拡大していきます。

■リスク

- 海外の新規サプライヤーからの調達による人権・労働安全リスク

■機会

- 新規サプライヤーに対する事前評価の実施による高品質かつ安定的な調達の実現と競争力の拡大
- エシカル消費に対応した製品・サービスの販売機会の拡大

主要取り組み指標（KPI）と目標・実績

- 2022年度に実施した致命的・重大不適合項目の是正率
2022年度目標／実績： 65%/31%
- 2023年度に実施する致命的・重大不適合項目の是正率
2023年度目標： 65%

重要課題へのアプローチ

ミズノの委託先工場の多くが所在するアジア太平洋地域は、一般的に人権、労働、環境面での懸念が大きい地域といわれています。当社グループは、社会的責任に関する国際的なガイダンスであるISO26000の観点を加えた「ミズノCSR調達行動規範」を定め、当社の考えをサプライヤーにも伝えるとともに、これらの原則を遵守することを要請しています。

主要な取り組み

「人権を尊重した責任ある調達」に関連する取り組みは下記をご参照ください。

[人権の尊重（方針・体制）](#)

[サプライチェーンマネジメント](#)

今後に向けて

複数ブランドの製品の製造を受託しているサプライヤーが、各ブランドから個別に監査を求められ、監査ごとに異なる要求事項に対応することは、大きな負担となっており、サプライヤーからは、重複する監査の改善を要望する声があがっています。それを受けて、業界団体やその他のイニシアチブによる情報の共有化の取り組みが進んできています。当社グループもCSR監査重複などの問題の解決に継続して取り組みます。



ライフサイクルを通じた地球環境への責任

なぜ重要か（重要性の理由）

地球温暖化や廃棄物による汚染など、地球環境はさまざまな問題に直面しています。気候変動による経済活動への影響や、自然災害の増加による生産設備の停止といった影響も懸念されています。世界中の人々が安全に、いきいきとスポーツができる環境を未来につなげるため、ミズノは事業活動における温室効果ガス（GHG）排出量の削減をはじめとした環境負荷の低減や、環境に配慮した製品・サービスの開発と提供が重要だと考えています。

関連するSDGs



ミズノのリスクと機会

ミズノでは、気候変動、廃棄物、化学物質の3項目について重要課題に設定し、それぞれリスクと機会の分析を進めています。また、生物多様性を含む自然資本への社会的な関心の高まりを受け、社内の理解促進を図っていきます。当社グループの取り組み、および事業・戦略・財務へのインパクトを報告できる体制を構築していきます。

■リスク

- 気候変動に伴う事業所、店舗、管理施設などへの物理的損害
- 気候変動によるサプライヤーの操業停止や原材料調達の遅れ
- 環境規制の強化と対応コストの増加
- 再生可能エネルギーの導入によるコストの増加
- 気温の上昇や熱中症のリスク拡大による屋外スポーツの減少
- 廃棄物の排出増による処理コストの増加
- 有害化学物質の流出リスク

■機会

- 省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの導入、廃棄物の削減、リサイクルの推進などによるコスト削減
- 環境配慮型商品、気候変動対応商品の開発・販売による売上の拡大

ミズノ長期環境目標

ミズノは、気候変動の緩和に向けた取り組みを加速させるため2020年8月に長期環境目標を見直し、2050年までにカーボンニュートラルの実現を目指すことを定め、2030年のScope1、2の目標に加え、Scope3の目標を設定し、2021年5月に公開しました。

2050年

カーボンニュートラルの実現を目指す

2030年（温室効果ガス排出量・2018年比）

Scope1,2：30%削減

Scope3：50%削減（製品当たり）

主要取り組み指標（KPI）と目標・実績

- アパレル：環境配慮型商品
2028年目標：100%（新製品全カテゴリ）
- フットウエア：環境配慮型商品
2027年目標：100%（新製品全カテゴリ）
- 用具：製造工程における材料ロス削減、製造時に使用するエネルギー量削減、副資材削減・簡素化
2030年目標：30%削減（対2018年比）

[詳細はこちらをご参照ください](#)

重要課題へのアプローチ

ミズノの事業活動全体における温室効果ガス排出量のうち、その他の間接的な排出であるScope3の占める割合は約97%です。特に「購入した製品・サービス」が全体の約80%を占めるため、製品を通じた温室効果ガス排出量の削減が重要になってきます。今後も引き続き、温室効果ガス排出量の低減に向けた製品の企画開発を推進します。

主要な取り組み

「ライフサイクルを通じた地球環境への責任」に関連する取り組みは下記をご参照ください。

[方針と体制](#)

[環境マネジメントシステム](#)

[製品における環境影響の緩和](#)

[気候変動](#)

[水の利用と管理制](#)

[有害化学物質の削減](#)

[廃棄物の削減](#)

[事業活動と環境負荷](#)

今後に向けて

2050年カーボンニュートラル実現に向けて、製造工程の革新や再生可能エネルギーの活用などの取り組みを進めていきます。あわせてリサイクルの推進、廃棄物の削減や水の効率的な利用など環境に配慮した取り組みを加速させていきます。



責任ある事業慣行

なぜ重要か（重要性の理由）

ミズノは、事業活動において、すべての法令、国際ルールを遵守し、地域社会、お客様、取引先などの各ステークホルダーとの間の良好な関係を保ち、企業として社会的責任を果たす立場にあると考えており、責任ある事業慣行に努めていきます。

関連するSDGs



ミズノのリスクと機会

ミズノの従業員による汚職や贈収賄、サプライヤーによる違反行為などのコンプライアンス違反は、レピュテーションが毀損されるなど企業活動に大きな悪影響をもたらします。また、第三者の知的財産権の侵害や、サイバー犯罪の拡大とサイバーセキュリティ事故は、事業の存続が危ぶまれるリスクにもなり得ると認識しています。ステークホルダーからの信頼構築による持続的な企業価値の創造に向けて、責任ある事業慣行に取り組んでいきます。

■リスク

- 汚職、贈収賄等のコンプライアンス違反
- 第三者の知的財産権の侵害
- サイバー犯罪の拡大とサイバーセキュリティ事故

■機会

- ステークホルダーからの信頼構築による持続的な企業価値創造

主要取り組み指標（KPI）と目標・実績

- 内部通報窓口の従業員認知度の向上
2022年度目標／実績：
①ミズノ従業員によるミズノフェアプレーホットライン 100%/未調査※
②ハラスメント窓口認知度 100%/90%（アンケート回答者915名）
- 2023年度目標： ①100%、②100%

※ ミズノフェアプレーホットライン窓口認知度については2022年度未調査

重要課題へのアプローチ

ミズノは、事業活動においても法令、社会規範、倫理、社内規程などを遵守し、コンプライアンス違反行為を防止するために、「コンプライアンス／腐敗防止」「知的財産の保護」「個人情報の保護」のテーマ毎に取り組みを実施しています。

主要な取り組み

「責任ある事業慣行」に関連する取り組みは下記をご参照ください。

[コンプライアンス／腐敗防止](#)

[知的財産の保護](#)

[個人情報の保護](#)

今後に向けて

グローバルにおける事業領域拡大を受け、コンプライアンス、知的財産、個人情報保護といったテーマごとにガバナンス強化が必要であるため、現状組織が抱える課題に応じた対策（社員教育、社内体制の変更、制度の見直しなど）を実施していきます。



安全で高品質な製品への責任

なぜ重要か（重要性の理由）

「ええもんつくんなはれや」。創業者 水野利八のこの言葉を大切にしてきたミズノは、安全で優良な製品を製造・販売することが重要だと考えています。製品の安全性・品質の欠陥はお客さまからの信頼に影響します。お客さまが当社製品を正しく安全に使用できるような情報を提供するとともに、お客さまからの「声」を製品の改善に生かす取り組みを継続することで、より良い製品の提供に努めていきます。

関連するSDGs



ミズノのリスクと機会

新規市場への参入などによる取り扱い製品の多様化やサプライチェーンの複雑化に対応すべく、より柔軟な品質保証体制の構築を検討しています。また、世界的な化学物質規制強化の動きに対応すべく、海外グループ会社と連携したグローバル品質保証体制の構築を進めます。安全で高品質な製品を提供するための品質知識教育は、多様な勤務体系に対応した習得の機会を設定していきます。

■リスク

- 新規市場への参入などによる取り扱い製品の多様化やサプライチェーンの複雑化
- 世界的な化学物質規制強化への対応

■機会

- より柔軟な品質保証体制の構築による迅速な製品投入と販売機会の拡大
- 各国の法令に基づく安全な製品の生産と販売
- 多様な勤務体系に応じた品質知識習得の機会創出による人材の育成

主要取り組み指標（KPI）と目標・実績

- 品質目標（クレーム返品に関する不良率※）
2022年度実績：目標達成率
①グローバルフットウエアプロダクト本部 140%
②グローバルアパレルプロダクト本部 153%
③グローバルイクイップメントプロダクト部 106%
2023年度目標：目標達成率100%

※ 製造責任の不良返品数を送品数で割って算出し、各部門で定めている目標値と比較したもの。

重要課題へのアプローチ

ミズノは、製品の安全と品質管理のため、各種レビューや検査を実施しています。各種レビューでは、製品の設計、使用する材料、使用時の安全評価、表示物など、品質に関するさまざまな項目をチェックしています。新製品製造開始前のデザインレビューでは、チェックリストに基づき、構造や材料、技術面について確認作業を行います。また、製造後、工場からの製品出荷前には出荷前検査を行い、単品不良がないか最終チェックをしています。

主要な取り組み

「安全で高品質な製品への責任」に関連する取り組みは下記をご参照ください。

[製品の安全と品質（方針・体制）](#)

[製品の安全と品質の確保](#)

[製品に関するコミュニケーション](#)

[お客様との関わり](#)

今後に向けて

引き続き、グローバルな視点における品質保証体制の整備と人材の育成を通じて安全で高品質な製品の提供に取り組んでいきます。